

平成28年度国立大学法人奈良女子大学・奈良市共同研究
「奈良市の有配偶女性の就業継続と再就職」

子育て期女性の仕事と生活に関する
アンケート調査(女性調査)

報告書

平成29年3月

目 次

調査の概要	1
結果の概要	3
1. 回答者の属性	6
1.1 生年および年齢	6
1.2 最終学歴	6
1.3 15歳時の居住地	7
1.4 父母の居住地	7
1.5 子ども	8
2. 回答者の就業キャリア	9
1. 現在の就業状態	9
2.1.1 就業状態、従業上地位、職業	9
2.1.2 労働日数と労働時間	11
2.1.3 従業地と通勤時間	12
2.1.4 年収	13
2. 学卒後の就業経験とキャリア	14
2.2.1 キャリアタイプの分類	14
2.2.2 職場数	15
3. 結婚・出産・育児による離職	15
2.3.1 結婚・出産・育児を機に離職した際の職は初職か	15
2.3.2 離職前の従業上地位	16
2.3.3 離職前の職業	16
2.3.4 離職理由	17
2.3.5 再就職の希望時期	18
4. 求職活動と再就職	19
2.4.1 求職時に希望した従業上地位と再就職後の従業上地位	19
2.4.2 求職時に希望した職業と再就職後の職業	20
2.4.3 求職時に重視した条件と再就職後に実現した条件	21
2.4.4 求職期間と再就職時の末子年齢	22

2. 4. 5	再就職した理由	23
2. 4. 6	求職時に利用したメディア・サービス	23
2. 4. 7	再就職前に不安だったこと、実際に働いても不安を感じたこと	24
2. 4. 8	求職活動で苦勞したこと	25
2. 4. 9	再就職に満足しているか	26
2. 4. 10	就業調整の有無	26
3.	配偶者の属性と就業状況	27
3. 1	配偶者の生年および年齢	27
3. 2	配偶者の最終学歴	27
3. 3	配偶者の父母の居住地	28
3. 4	配偶者の就業状態、従業上地位、職業	29
3. 5	配偶者の従業地と通勤時間	30
3. 6	配偶者の年収	30
4.	配偶者・親族からのサポート	31
4. 1	配偶者の家事分担率	32
4. 2	配偶者及び親族からのサポート	32
5.	回答者の生活環境	34
5. 1	居住年数と居住形態	34
5. 2	同居人数と要介護者	34
6.	回答者の生活意識	35
6. 1	経済的余裕があっても就業を希望するか	35
6. 2	10年後の見通し（生活不安）	36
6. 3	今後の子ども希望	36
7.	女性調査票自由記述欄	37

調査票

調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、奈良市の子育て期にある配偶者を持つ女性の就業実態を把握し、必要な支援を検討するための基礎資料を得ることを目的として実施しました。

2. 調査の実施概要

(1) 調査対象

2016（平成28）年9月1日現在、奈良市住民基本台帳に記載されている、18歳未満の子どもと同一世帯に属する30～49歳の有配偶女性（世帯主との続き柄が「妻」）22968人。

(2) 抽出方法

層化2段階抽出法（2段階目は確率比例抽出法）。母集団を47小学校区で層化し、各学区における有子有配偶女性世帯数の比率に応じて、標本総数2997を割り当てました。

(3) 調査方法

郵送法による配布と回収

(4) 調査期間

平成28年11月16日～平成29年1月10日

(5) 回収結果

有効発送数47地点2979票、有効回収数1240票、有効回収率41.6%

(6) 調査項目

回答者本人と配偶者の属性（年齢、教育、15歳時居住地（回答者のみ））および就業状況、労働日数・時間（回答者）、通勤時間（回答者・配偶者）、職業キャリア（離職、求職、再就職の状況と意識）、家族の状況（親、子ども）、配偶者および親族からのサポート、居住環境、将来に関する意識。

(7) 参考資料

調査票の作成にあたっては、平成26年度厚生労働省「出産・育児等を機に離職した女性の再就職等に係る調査研究事業」委託調査を参考としました。

3. この報告書の見方

- 本文や図表のなかで、N は各章節において分析対象とする回答者数、n は各設問の有効回答者数を示しています。
- 図表において、「度数」は各設問における回答数です。「%」（回答率）は各設問の有効回答者数（n）を 100%とし、小数点以下第 1 位を四捨五入して表示しています。そのため、内訳の合計が 100%にならないことがあります。
- 「いくつでも回答」「3 つまで回答」は、一人の回答者が複数の選択肢を選択できる設問です。この場合、表中の「回答者計」は有効回答者数を示し、「%」は有効回答者数に対する回答率を表しています。

結果の概要

1. 回答者の属性

回答者の生年は 1967 年から 1986 年に分布しており、5 年階級では「1971 年～1975 年生まれ」が 36%で最も多くなっています (1.1)。中学を卒業する 15 歳時点での居住地をみると「奈良市内」が 33%、「県内他市町村」が 19%、「奈良県外」が 48%となっています (1.3)。父母の現住地が県外である回答者はそれぞれ 47%、44%であるため、県外出身者が半数弱を占めると考えられます (1.4)。

子供が 1 人いる回答者は全体の 31%、子供が 2 人いる回答者は 51%であり、回答者の 20%が今後 1 人以上の子供を希望しています (1.5、6.3)。

2. 現在の就業状態

回答者の現在の就業状態をみると、「有業」が 61%、「休業」が 5%、「無業」が 34%となっています。このうち「有業」「休業」をあわせた「有休業者」の従業上の地位は「パート・アルバイト (短時間勤務)」が 42%、次いで「正社員・正職員」が 26%となっています。職業 (職種) は様々ですが、なかでも「サービス (調理、接客等)」18%、「看護職等の医療専門職」15%が多くなっています (2.1.1)。回答者の 52%が 1 週間あたり「5 日」就労している一方で、1 週間あたりの労働時間は多様であり最も多い「35-42 時間未満」でも 20%となっています (2.1.2)。有休業者の 65%は「奈良市内」(自宅を含む) で働いており、通勤時間は「0 分」を含む「30 分以内」が 73%を占めています (2.1.3)。有休業者の 75%は年収「300 万円未満」となっています (2.1.4)。

回答者の 71%は経済的余裕があっても「働きたい」もしくは「どちらかといえば働きたい」と答えており、経済的条件に関わらず、就業希望者は多いことがわかります (6.1)。その一方で、回答者の 79%が 10 年後の生活について「とても不安」または「やや不安」と感じています (6.2)。

3. 就業経歴

就業の経歴を把握するために、就業経験のある回答者 (1138 件) を、(A)離職経験がある、(B)結婚・出産・育児による離職経験がある、(C)その後再就職した、の 3 点によって 4 つのタイプ (キャリアタイプ) に分けてみると、①離職経験がない「就業継続」タイプが 14%、②離職経験のある回答者のうち結婚・出産・育児以外の理由で離職した「離職他」タイプが 14%、③結婚・出産・育児を機に離職した者のうち再就

職しなかった「離職無職」タイプが24%、④再就職した「離職再就職」タイプが48%となっています(2.2.1)。就業経験のある回答者の約7割は結婚・出産・育児による離職の経験があり、そのうちの約3分の2が再就職をしていることとなります。

結婚・出産・育児を機に離職した回答者(③「離職無職」タイプ および④「離職再就職」タイプ)のうち半数近く(49%)が「家事育児に専念するために自発的に」離職しており、同様に半数近く(47%)が離職後「経済的困難」を感じています(2.3.6)。

4. 結婚・出産・育児による離職者の再就職

「離職再就職」タイプの64%は「経済的理由」で、また48%は「生活を充実させるため」に求職活動を始めています(2.4.5)。求職時に重視した条件は「勤務時間が柔軟」(80%)、「勤務先が自宅から近い」(65%)が多くなっています(2.4.3)。そのため、求職時に希望した従業上地位と実際に再就職した際の従業上地位は、いずれも「パート・アルバイト(短時間勤務)」(67~68%)が最も多くなっており(2.4.1)、再就職者の62%は末子が就学する前に再就職しています(2.4.4)。再就職前に不安だったことおよび再就職後に実際に働いても不安を感じたことについて尋ねると、いずれも「子育てとの両立」(41%)が最も多く、次いで「職場の人間関係」(31%)が多いです(2.4.7)が、77%は再就職に満足しています(2.4.9)。

就職情報を得るために利用したメディア・サービスとしては「新聞チラシ」が48%で最も多く、「ハローワーク」が40%、「求人情報サイト」28%、「知人紹介」24%と続いています(2.4.6)。奈良市内の企業の多くは「ハローワーク」を利用(30~85%)しており、企業により「求人情報誌」「求人ウェブサイト」「新聞チラシ」「知人紹介」などの利用もみられるものの全体にはばらつきがあり、求人求職情報が相互に十分伝わっていない可能性もあります(企業調査IV.1.2)。

5. 家族や友人からのサポート

回答者と配偶者で行う家事総量を100%としたときに配偶者が分担する割合を尋ねると、回答者の約半数は「19%以下」と回答しており、家事負担がほぼ回答者にかかっていることがわかります。(4.1)

配偶者および親族からのサポートについて、精神的サポート(「子育ての悩みを相談できる」「生き方を相談できる」と手段的サポート(「子どもの世話をする」「家事をする」)の4つを考えると、精神的サポートについては「夫」「友人」「母」に、手段的

サポートは「夫」「母」に期待する傾向があります。「夫」は「家事」(67%) に比べて「子どもの世話」(38%) をサポートする割合が低く、逆に「母」は「家事」(33%) よりも「子どもの世話」(55%) をサポートする傾向があります(4.2)。

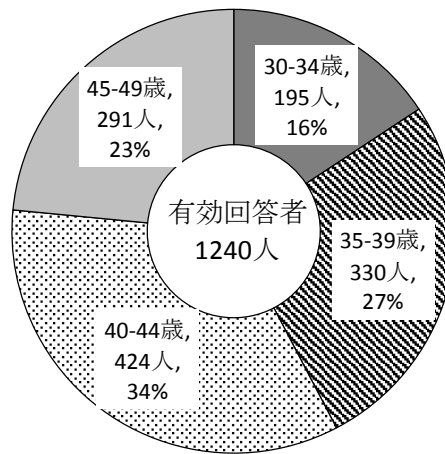
1. 回答者の属性

1.1 生年および年齢

問1. あなたの生年（西暦）と平成28年10月1日時点の年齢をご記入ください。

回答者の年齢は、「40歳から44歳」が最も多く、34%を占めています。

表 1.1 回答者年齢

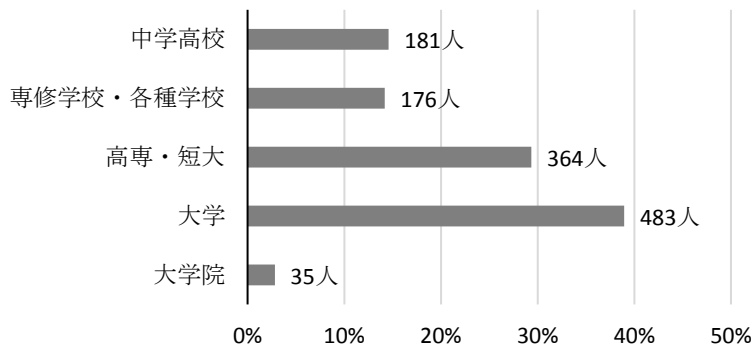


1.2 最終学歴

問2. あなたが最後に行った学校は次のどれにあたりますか。

回答者の最終学歴は、「大学」が483人（39%）で最も多くなっています。

表 1.2 最終学歴 (N=1239)

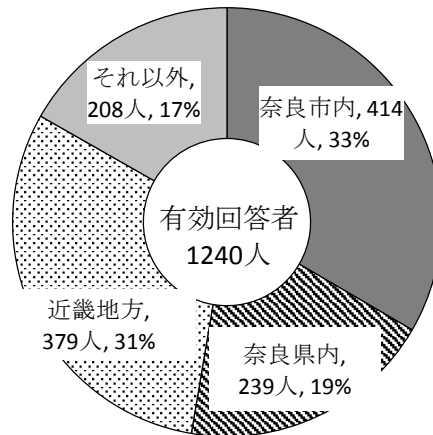


1.3 15歳時の居住地

問3. あなたが15歳の頃どちらにお住まいでしたか。

15歳時の居住地は、「奈良市内」が33%で最も多く、次いで「近畿地方」（奈良県を除く）が31%となっています。

表 1.3 15歳の時の居住地

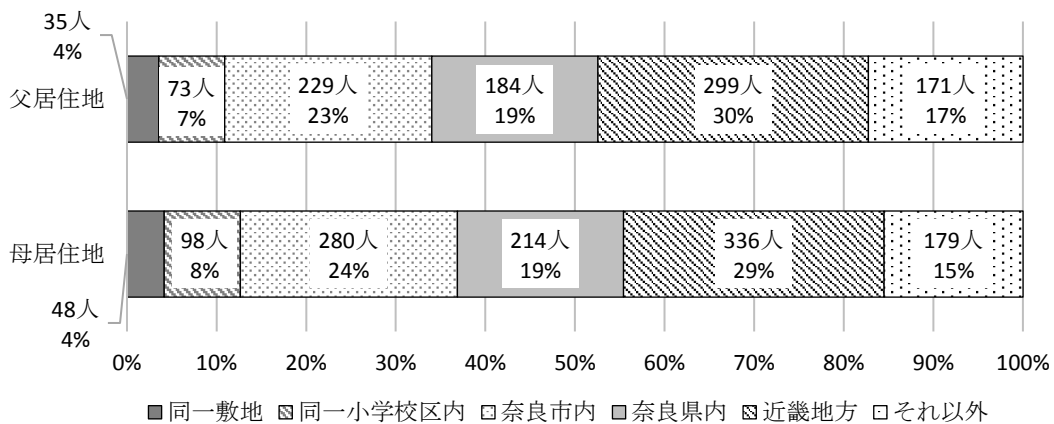


1.4 父母の居住地

問4. あなたのご両親は現在、どちらにお住まいですか。

父母の居住地はともに「近畿地方」がそれぞれ30%、29%と最も多くなっていますが、「同一敷地」「同一小学校区内」「奈良市内」を合わせるとそれぞれ34%、37%で、最も多くなります。

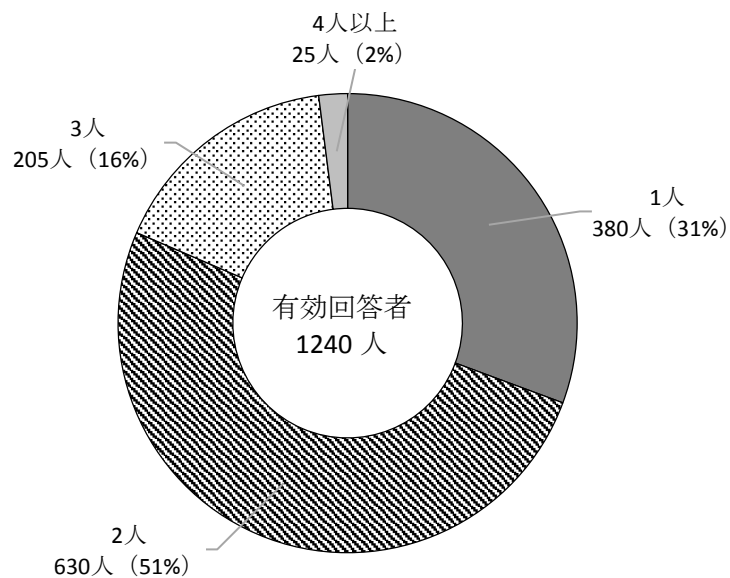
表 1.4.1 父の居住地 (N=991) 表 1.4.2 母の居住地 (N=1155)



1.5 子ども

子どもの数は「2人」が51%で最も多く、次いで「1人」が31%となっている。

表 1.5 子どもの数



2. 回答者の就業キャリア

1. 現在の就業状態

2.1.1 就業状態、従業上地位、職業

問5. あなたは、現在、収入をとまなう仕事についていますか。

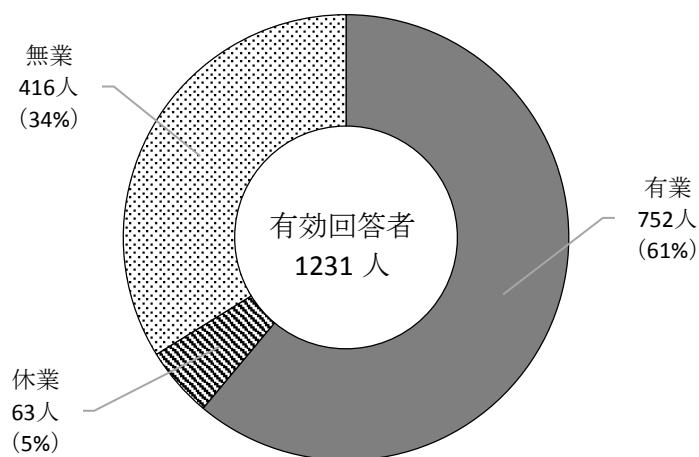
問6. その仕事は、次のどれにあたりますか

問7. その仕事の種類は、次のどれにあたりますか

回答者の現在の就業状態は、「有業」が61%、「休業」が5%、「無業」が34%となっています。従業上の地位は「パート・アルバイト（短時間勤務）」が42%で最も多く、次いで「正社員・正職員」が26%となっています。

職業は「サービス（調理、接客等）」18%、「看護職等の医療専門職」15%の順となっています。

表 2.1.1.1 現在の就業状態



本調査では、有配偶者女性のうち、18歳未満の子がいる方のみを対象としているため、2010年の国勢調査に基づく有業率とは一部数値が異なっている。

表 2.1.1.2 現在の従業上地位 (N=809)

	度数	%
会社経営者・役員	7	1%
正社員・正職員	210	26%
パート・アルバイト (フルタイム)	86	11%
パート・アルバイト (短時間勤務)	340	42%
契約社員・嘱託社員	32	4%
自営業主・自由業者	24	3%
公務員	64	8%
自営業の家族従業者	27	3%
内職	11	1%
その他	8	1%
合計	809	100%

表 2.1.1.3 現在の職業 (N=808)

	度数	%
人事・総務	23	3%
経理	37	5%
企画・広報	10	1%
営業事務	25	3%
その他一般事務	110	14%
営業	15	2%
窓口業務	27	3%
販売	58	7%
研究開発	10	1%
生産工程・労務作業	37	5%
情報システム	10	1%
サービス (調理、接客等)	148	18%
介護職	29	4%
保育士	27	3%
看護職等の医療専門職	122	15%
その他の専門・技術職	58	7%
教員 (幼・小・中・高)	32	4%
運輸	5	1%
保安	1	0%
その他	24	3%
合計	808	100%

2.1.2 労働日数と労働時間

問8. 現在、あなたの一週間の労働日数は何日くらいですか。

問9. 現在、あなたは一週間あたり平均して何時間働いていますか。

1週間あたりの労働日数は「5日」が52%（406人）で最も多く、1週間あたりの労働時間は「35-42時間未満」が20%（155人）で最も多くなっています。

表 2.1.2.1 週労働日数 (N=775)

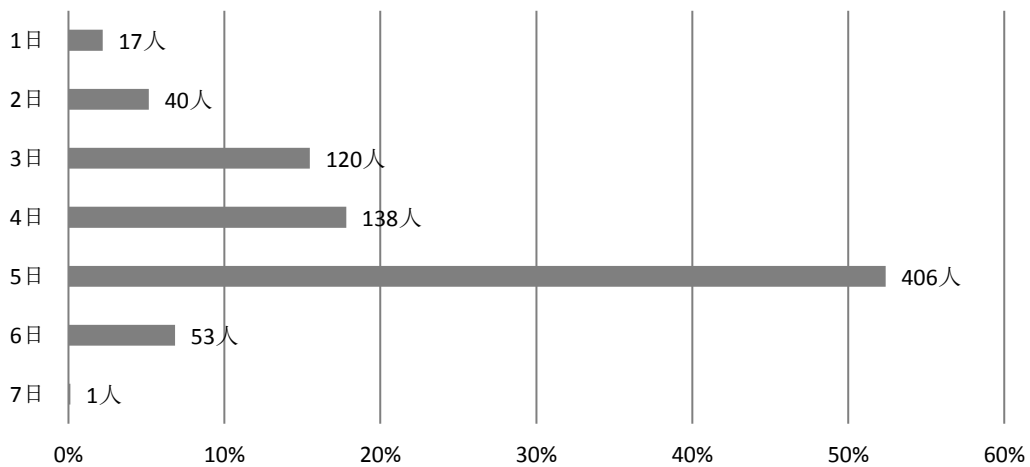
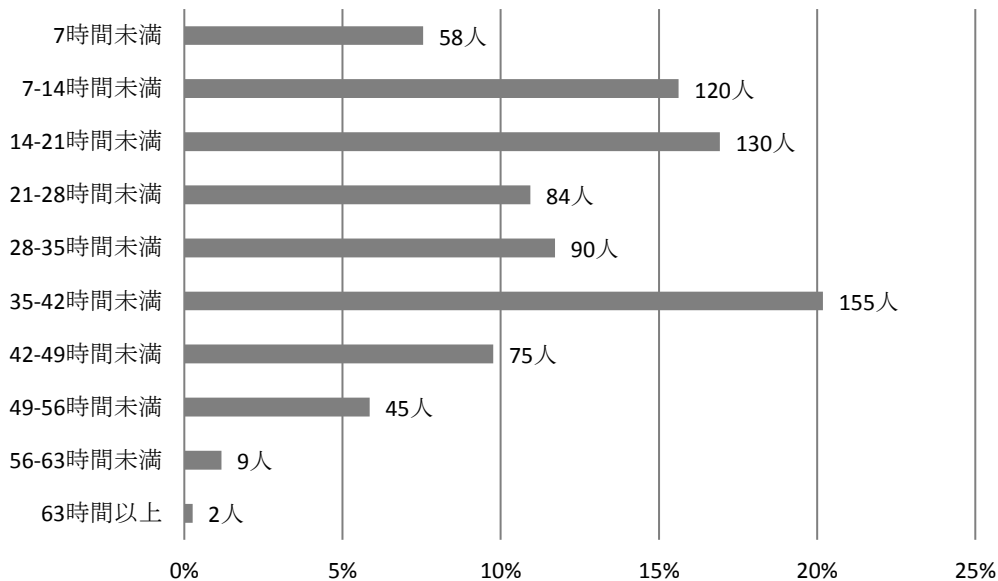


表 2.1.2.2 週労働時間 (N=768)



2.1.3 従業地と通勤時間

問10. あなたが主にお仕事をなさっている場所はどこですか。

問10-1. 現在、通勤時間は平均すると片道どのくらいですか。

従業地は「奈良市内」が50%で最も多く、「自宅」「小学校区」内を含めると65%は奈良市内で働いています。通勤時間は「0分」を含め「30分以内」が73%を占めます。

表 2.1.3.1 従業地 (N=799)

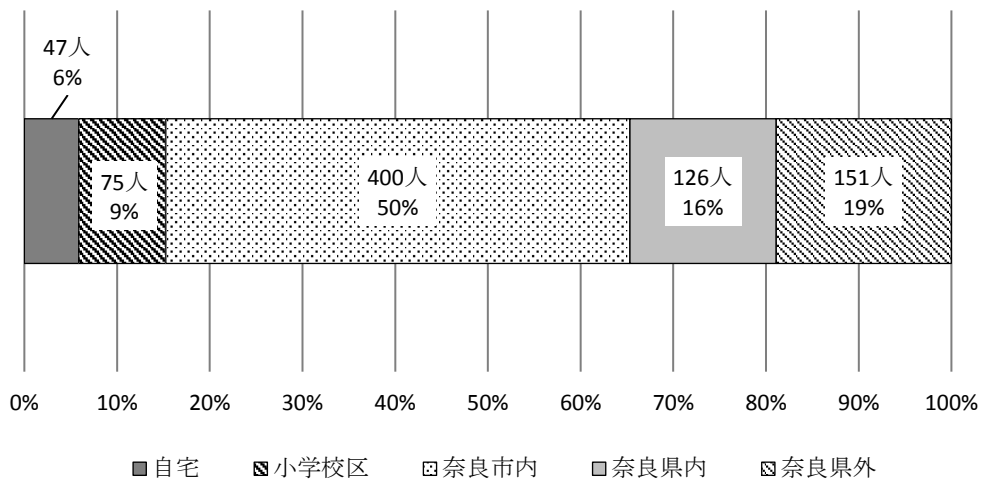
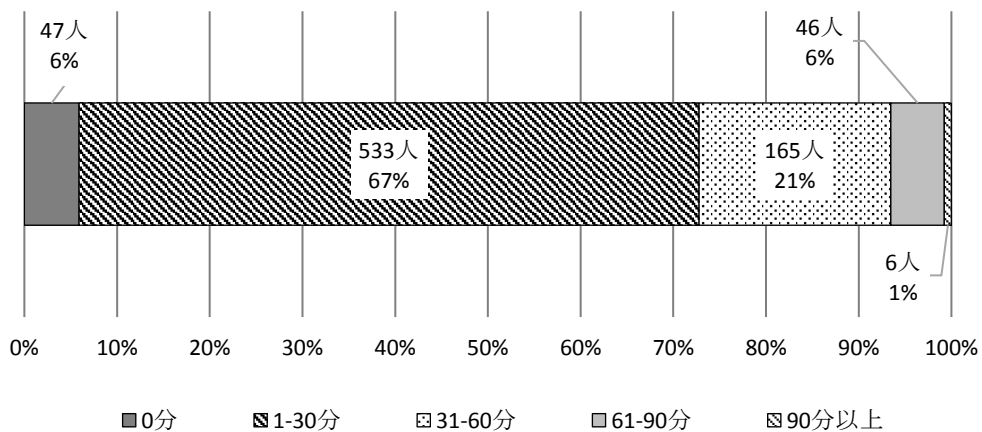


表 2.1.3.2 通勤時間 (N=797)



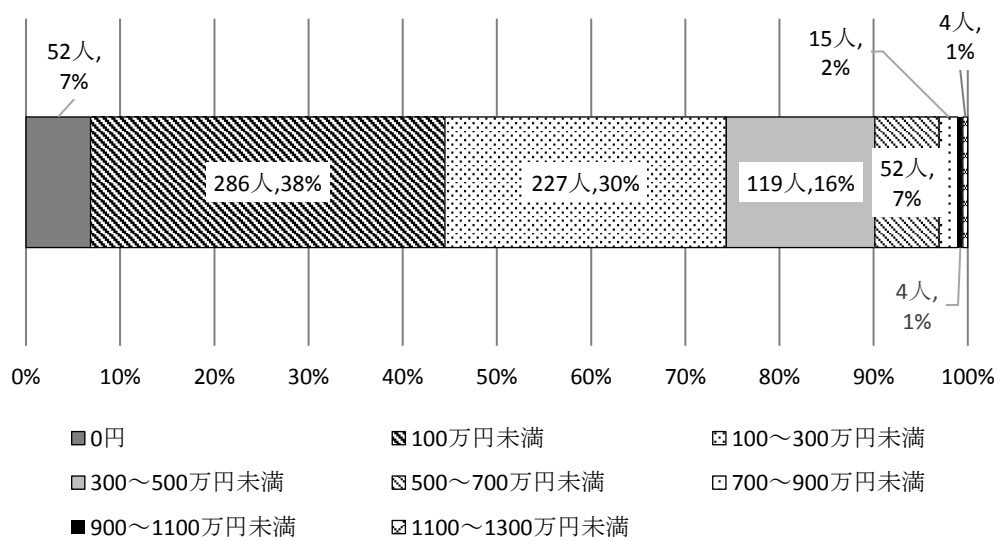
2.1.4 年収

問11. あなたの昨年1年間（1月～12月）の収入（税込み）は次のうちどれに近いですか。

回答者の

は、有休業の場合に限ると「100万円未満（0円を除く）」が38%で最も多く、300万円未満が全体の75%を占めています。

表 2.4 年収 (N=759)



2. 学卒後の就業経験とキャリア

この調査では、現在の就業状態の他に、①最終学校卒業後（学卒後）の就業経験、②離職経験の有無、③結婚・出産・育児による離職の有無、④その後の再就職経験の有無を尋ねています。この節以降では、学卒後の就業経験があり、かつ②～④の3項目すべての回答が有効だった1138人を対象とします。

2.2.1 キャリアタイプの分類

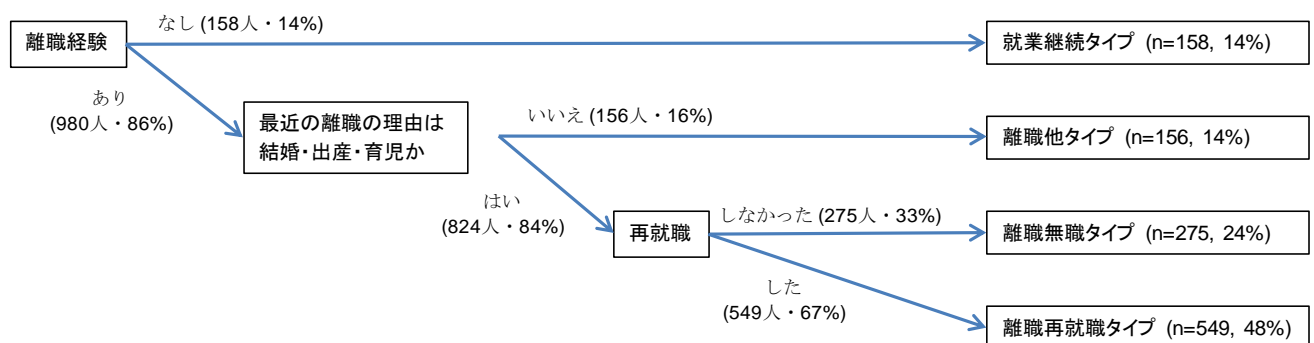
問12. あなたが最後に行った学校を終了してから現在までのお仕事
の経験について

問12-2. また辞めた理由はなんですか。

まず学卒後就業経験のある回答者1138人を、①離職経験があるか、②結婚・出産・育児による離職経験があるか、③その後再就職したかによって、4つのタイプに区分しました。そして、離職経験がない人を「就業継続」タイプ、離職した人のうち結婚・出産・育児以外の理由で離職した人を「離職他」タイプ、結婚・出産・育児を機に離職した人のうち再就職しなかった人を「離職無職」タイプ、再就職した人を「離職再就職」タイプとして分けています。

これら4タイプの構成をみると、「就業継続」タイプは14%（158人）、「離職他」タイプは14%（156人）、「離職無職」タイプは24%（275人）、「離職再就職」タイプは48%（549人）でした。

図2.2.1 キャリアの4タイプ (N=1138)



2.2.2 職場数

問12-1. これまでにいくつの職場で働いたことがありますか。

離職を経験したことがある3タイプ（「離職他」タイプ、「離職無職」タイプ、「離職再就職」タイプ）について、働いた職場数の平均値はそれぞれ3.96（最大値20）、2.37（最大値9）、2.80（最大値15）でした。

表2.2.2 キャリアタイプ別の平均職場数（N=963）

キャリアタイプ	職場数			度数
	平均値	標準偏差	最大値	
離職再就職	3.96	2.159	20	546
離職無職	2.37	1.474	9	264
離職(その他)	2.80	1.741	15	153
合計	3.32	2.047		963

3. 結婚・出産・育児による離職

次に、結婚・出産・育児を機に離職した2タイプ（「離職無職」タイプ（275人）および「離職再就職」タイプ（549人））について、離職したときの状況をみていきます。

2.3.1 結婚・出産・育児を機に離職した際の職は初職か

問13. あなたが結婚・出産・育児を機に離職したお仕事は、初職ですか。 ※初職とは、学校を卒業（又は中退）してから初めてついた所得を伴う仕事をいう。

結婚・出産・育児を機に離職したのが学卒後の職である回答者（初職離職）は45%、すでに一度以上転職したことがある回答者（非初職離職）は55%です。離職後の再就職の有無と併せると、初職・非初職ともに再就職した場合は7割程度で、特段の関連は見受けられないようです。

表2.3.1 離職した職は学卒後の初職か（N=817）

キャリアタイプ	初職離職		非初職離職		全体	
離職再就職	257		290		547	
離職無職	109		161		270	
合計	366	45%	451	55%	817	100%

2.3.2 離職前の従業上地位

問 1 4. 結婚・出産・育児を機に離職したお仕事について

離職する前の従業上の地位は、「初職離職」と「非初職離職」で異なり、前者では「正社員・正職員」が 87%であるのに対して、後者では「正社員・正職員」が 39%、「パート・アルバイト」（フルタイム）が 22%、「パート・アルバイト」（短時間勤務）が 16%、「契約社員・嘱託社員」が 17%と様々です。

表 2.3.2 離職前の従業上地位と初職離職／非初職離職（N=807）

離職従業上地位	初職離職		非初職離職		全体	
会社経営者・役員	2	1%	2	0%	4	0%
正社員・正職員	314	87%	175	39%	489	61%
パート・アルバイト（フルタイム）	10	3%	98	22%	108	13%
パート・アルバイト（短時間勤務）	7	2%	70	16%	77	10%
契約社員・嘱託社員	15	4%	74	17%	89	11%
自営業主・自由業者	1	0%	7	2%	8	1%
公務員	9	2%	8	2%	17	2%
自営業の家族従業者	0	0%	6	1%	6	1%
その他	5	1%	4	1%	9	1%
合計	363	100%	444	100%	807	100%

2.3.3 離職前の職業

問 1 5. 結婚・出産・育児を機に離職したお仕事の職種について

離職する前の職業をみると、「初職離職」「非初職離職」とともに「その他一般事務」が 18%で最も多いですが、その次が「初職離職」では「営業事務」の 14%、「非初職離職」では「サービス（調理、接客等）」17%になっています。また双方ともに「医療専門職」が 3 番目に多くなっています。

表 2.3.3 離職前の職業と初職離職／非初職離職 (N=812)

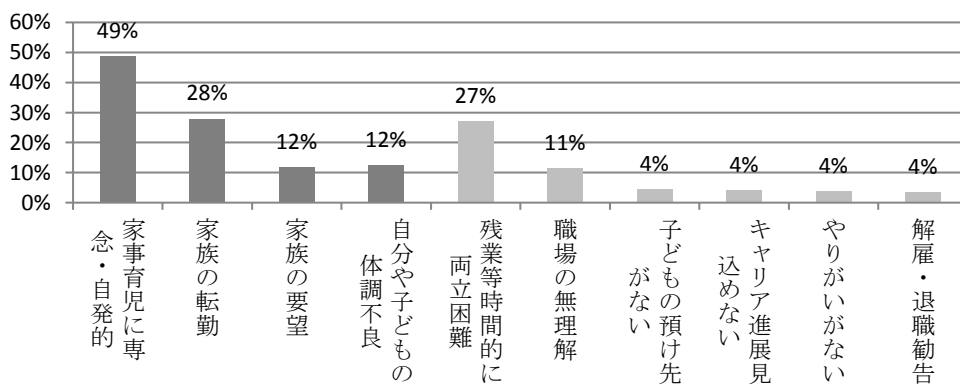
離職職業	初職離職		非初職離職		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
人事・総務	20	5%	8	2%	28	3%
経理	14	4%	19	4%	33	4%
企画・広報	5	1%	7	2%	12	1%
営業事務	52	14%	35	8%	87	11%
その他一般事務	66	18%	82	18%	148	18%
営業	11	3%	9	2%	20	2%
窓口業務	31	8%	11	2%	42	5%
販売	14	4%	38	9%	52	6%
研究開発	2	1%	2	0%	4	0%
生産工程・労務作業	7	2%	15	3%	22	3%
情報システム	9	2%	5	1%	14	2%
サービス（調理、接客等）	26	7%	74	17%	100	12%
介護職	8	2%	9	2%	17	2%
保育士	16	4%	19	4%	35	4%
看護職等の医療専門職	48	13%	62	14%	110	14%
その他の専門・技術職（	15	4%	37	8%	52	6%
教員（公立・私立の幼・小・中・高）	16	4%	4	1%	20	2%
運輸	1	0%	2	0%	3	0%
その他	4	1%	9	2%	13	2%
合計	365	100%	447	100%	812	100%

2.3.4 離職理由

問 16. 結婚・出産・育児を機に離職した理由は何でしたか。

離職の理由(3 つまで回答)については、全体では「家事育児に専念・自発的」が 49%で最も多く、「家族の転勤」が 28%、「残業等時間的に両立困難」が 27%となっています。

表 2.3.4 離職理由(3 つまで回答) (N=1263)

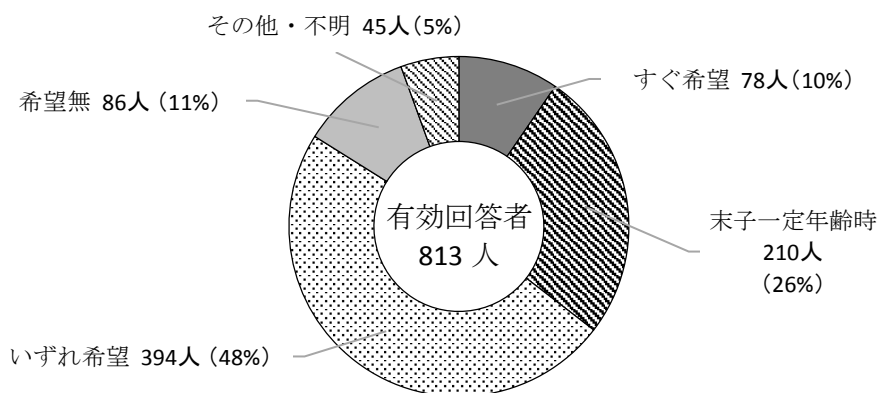


2.3.5 再就職の希望時期

問17. あなたは、結婚・出産・育児を機に離職した当時、再び仕事につきたいと思っていましたか。

離職した後に再就職を希望する時期については、「いずれ希望」が48%で最も多くなっています。ついで「末子がある程度の年齢になった時」が26%となっています。この末子の年齢の内訳については、より詳細なデータをみると、1歳、3歳、7歳が多くなっており、保育園や小学校入学のタイミングとの関連が予想されます。

表 2.3.5 再就職の希望時期



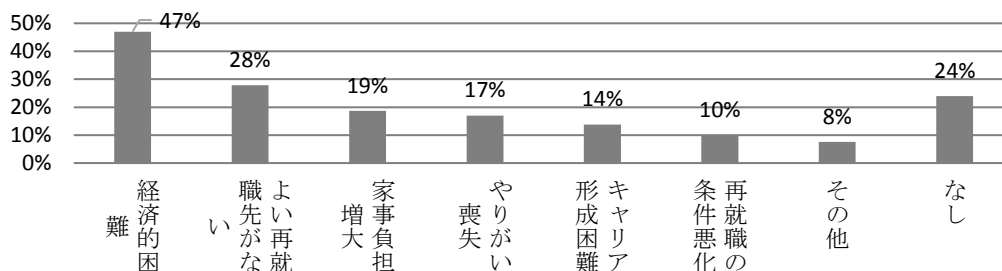
2.3.6 離職後に感じたこと

問18. あなたは、結婚・出産・育児を機に離職したことを後悔していますか。

問18-1. お仕事を辞めたことを後悔している理由はどのようなことですか。

離職した後に感じたこととして最も多く挙げられたのは「経済的困難」の47%で、次いで「よい再就職先がない」28%です。

表 2.3.6 離職後に感じたこと（離職後の状況）（いくつでも回答）（N=808）



4. 求職活動と再就職

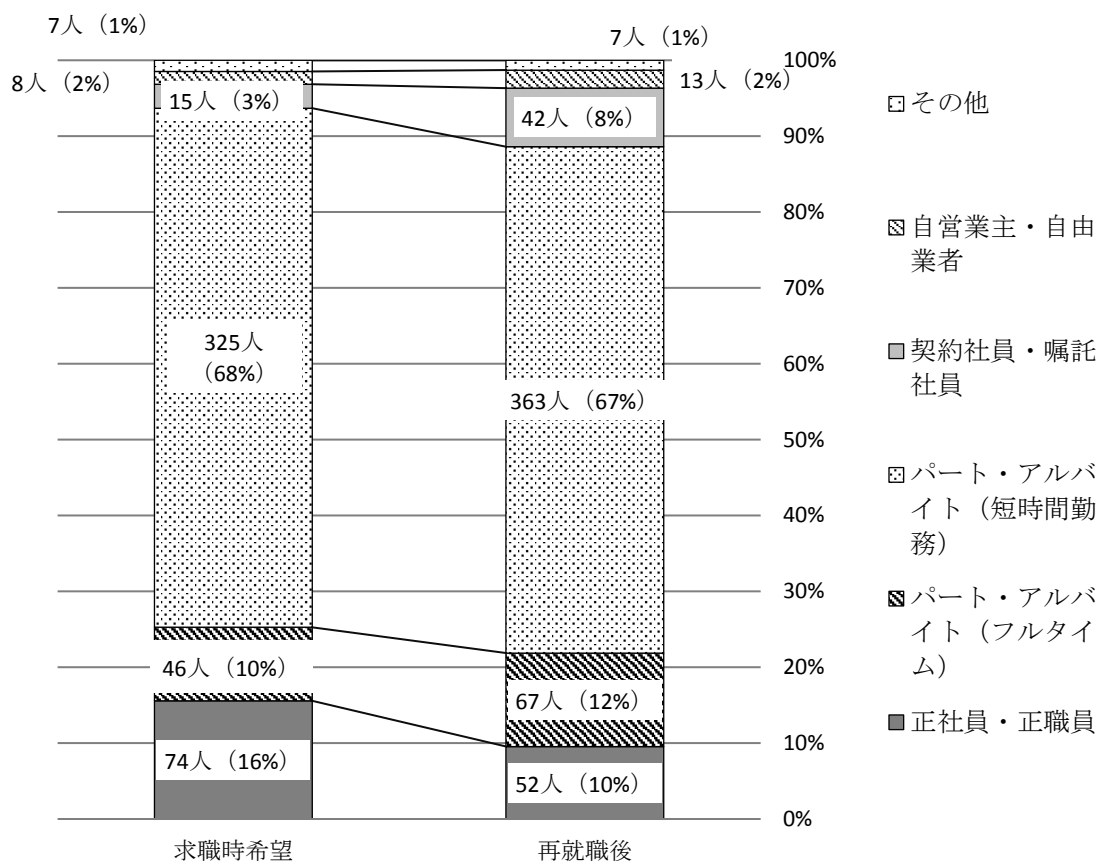
ここでは「離職再就職」タイプ（549人）を対象として、求職と再就職の状況を見ていきます。

2.4.1 求職時に希望した従業上地位と再就職後の従業上地位

問20. (1) 再就職後の就業形態、(2) 求職活動中に希望していた就業形態について

求職時に希望した従業上の地位と、再就職後の従業上の地位については、いずれも「パート・アルバイト（短時間勤務）」が67～68%と最も多くなっています。

表 2.4.1 (1) 求職時の希望従業上地位 (N=475) と (2) 再就職後の従業上地位 (N=544)



2.4.2 求職時に希望した職業と再就職後の職業

問21. (1) 再就職したお仕事の職種と、(2) 求職活動中にあなたが希望した職種について

求職時に希望した職業と再就職後の職業については、求職時は「その他一般事務」が30%で最も多いものの、実際に再就職した職種は「サービス（調理、接客等）」が27%で最も多くなっています。

表 2.4.2 (1) 求職時の希望職業 (N=496) と (2) 再就職後の職業 (N=529)

職業	求職時希望		再就職後	
	度数	%	度数	%
人事・総務	7	1%	8	2%
経理	12	2%	13	2%
企画・広報	3	1%	2	0%
営業事務	12	2%	14	3%
その他一般事務	① 148	30%	79	15% ②
営業			8	2%
窓口業務	4	1%	13	2%
販売	④ 29	6%	37	7% ④
研究開発	3	1%	4	1%
生産工程・労務作業	9	2%	21	4%
情報システム	3	1%	3	1%
サービス（調理、接客等）	② 84	17%	141	27% ①
介護職	18	4%	25	5%
保育士	19	4%	17	3%
看護職等の医療専門職	③ 79	16%	76	14% ③
その他の専門・技術職	⑤ 27	5%	34	6% ⑤
教員（公立・私立の幼稚園・小中学校・高校）	15	3%	12	2%
運輸	2	0%	8	2%
その他	22	4%	14	3%
回答者計	496	100%	529	100%

（上位5項目に順位）

2.4.3 求職時に重視した条件と再就職後に実現した条件

問22. (1)再就職先を決める際に最も重視したことについて、(2)そのうち実際に希望通りになったことについて

求職時に重視した条件と再就職後に実現した条件を比較すると、いずれにおいても「勤務条件が柔軟」（求職時 80%、再就職後 71%）、「勤務先が自宅から近い」（求職時 65%、再就職後 61%）が最も多くなっています。これらの2項目を求職時に重視した場合、いずれも8割以上が再就職の際にその条件を満たしています。

表 2.4.3.1 (1) 求職時重視条件 (3つまで回答) (N=539)
(2) 再就職実現条件 (3つまで回答) (N=518)

条件	求職時重視		再就職後実現	
	度数	%	度数	%
勤務条件が柔軟	430	80%	366	71%
勤務先が近い	350	65%	315	61%
看護休暇	184	34%	142	27%
給与	146	27%	102	20%
やりがい	142	26%	130	25%
預け場所近い	51	9%	42	8%
正社員	35	6%	26	5%
研修	18	3%	11	2%
経済的支援	4	1%	4	1%
なし	7	1%	16	3%
その他	21	4%	14	3%
回答者計	539	100%	518	100%

表 2.4.3.2 求職時の重視条件と再就職後の実現条件 (N=517)

求職時重視条件	再就職実現条件											回答者計	
	やりがい	給与	勤務条件 柔軟	看護休暇	近い	預け場所 近い	経済的支 援	正社員	研修	その他	なし		
やりがい	76%	23%	68%	16%	47%	4%	6%	4%	1%	1%	140	27%	
給与	26%	61%	61%	15%	52%	4%	6%	1%	1%	3%	141	27%	
勤務条件柔軟	23%	18%	83%	29%	60%	7%	2%	2%	2%	2%	415	80%	
看護休暇	17%	15%	71%	76%	60%	7%	3%	1%		2%	175	34%	
近い	21%	18%	72%	28%	88%	8%	4%	1%	1%	1%	341	66%	
預け場所近い	16%	4%	57%	22%	57%	76%	4%	4%		2%	49	9%	
経済的支援			50%	25%	50%	50%	100%				4	1%	
正社員	28%	28%	47%	16%	44%	9%	66%			9%	32	6%	
研修	27%	20%	67%	7%	47%		7%	53%			15	3%	
その他	18%	6%	53%	6%	35%	6%	12%			65%	17	3%	
なし			33%		33%					17%	6	1%	
回答者計	130	102	365	142	315	42	4	26	11	14	16	517	100%
	25%	20%	71%	27%	61%	8%	1%	5%	2%	3%	3%	100%	

2.4.4 求職期間と再就職時の末子年齢

問23. 再就職にあたって、求職期間はどのくらいでしたか。

問24. 再就職したときの、一番下のお子さんの年齢について

求職期間は「3か月未満」が合計で65%、再就職した時の末子の年齢は62%が「就学前」となっています。

表 2.4.4.1 求職期間 (N=538)

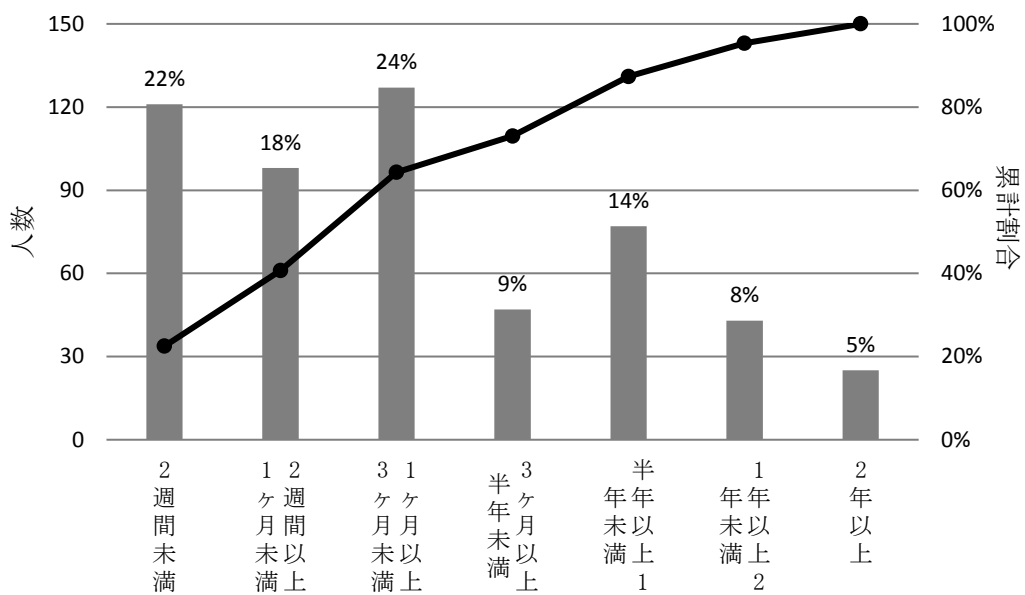
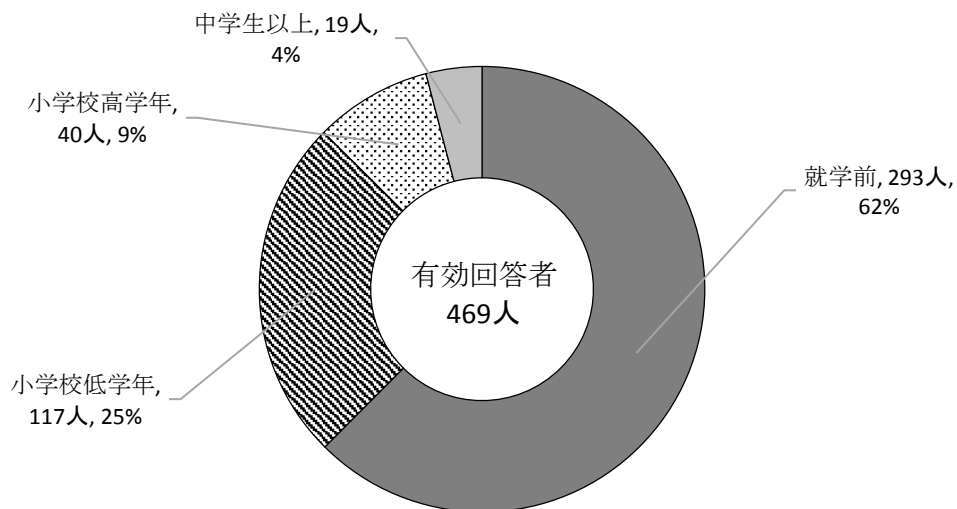


表 2.4.4.2 再就職時末子年齢

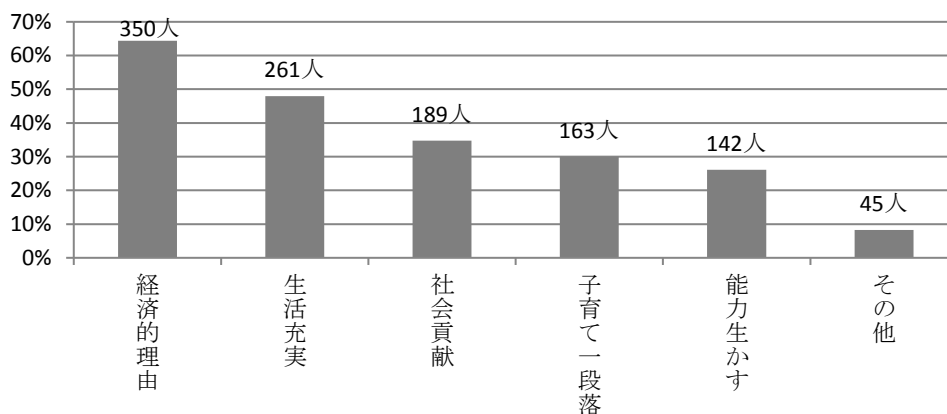


2.4.5 再就職した理由

問 2 5 . あなたが再就職した理由をお伺いします。

再就職した理由は、「経済的理由」が 64%と最も多く、次いで「生活の充実や、変化をもたせたい」が 48%となっています。

表 2.4.5 再就職の理由(いくつでも回答) (N=544)

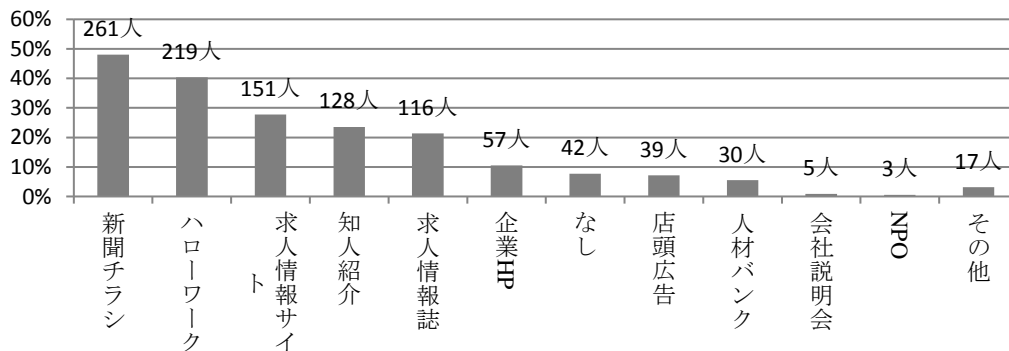


2.4.6 求職時に利用したメディア・サービス

問 2 6 . 再就職に向けて求職活動中に利用したサービスや機関についてお伺いします。

就職情報を得るために利用したメディア・サービスとしては「新聞チラシ」が 48%で最も多く、「ハローワーク」が 40%、「求人情報サイト」28%、「知人紹介」24%と続いています。

表 2.4.6 求職時に利用したメディア・サービス(いくつでも回答) (N=543)



2.4.7 再就職前に不安だったこと、実際に働いても不安を感じたこと

問27. (1)「再就職前に不安だったこと」と、そのうち(2)「実際に働いても不安を感じたこと」は具体的にどのようなことですか。

再就職前に不安だったことと、再就職後に実際に働いても不安を感じたことについて、最も多かった回答はいずれも「子育てとの両立」でした。「職場の人間関係」「ついていけるか」も、ともに多くなっていますが、再就職前に3つとも50%を超えているのに対し、再就職後は40~30%程度と下がっています。「将来キャリア」のみが再就職前10%に対し、再就職後に多くなり16%となっています。

表 2.4.7.1 (1) 再就職前の不安(いくつでも回答)(N=544)
(2) 再就職後の不安(いくつでも回答)(N=527)

不安	(1) 再就職前		(2) 再就職後	
	度数	%	度数	%
子育て両立	350	64%	214	41%
ついていけるか	282	52%	155	29%
職場人間関係	274	50%	164	31%
得意分野	75	14%	57	11%
将来キャリア	53	10%	84	16%
その他	12	2%	24	5%
なし	62	11%	134	25%
回答者計	544	100%	527	100%

表 2.4.7.2 (1) 再就職前の不安(いくつでも回答)(N=544)
(2) 再就職後の不安(いくつでも回答)(N=527)

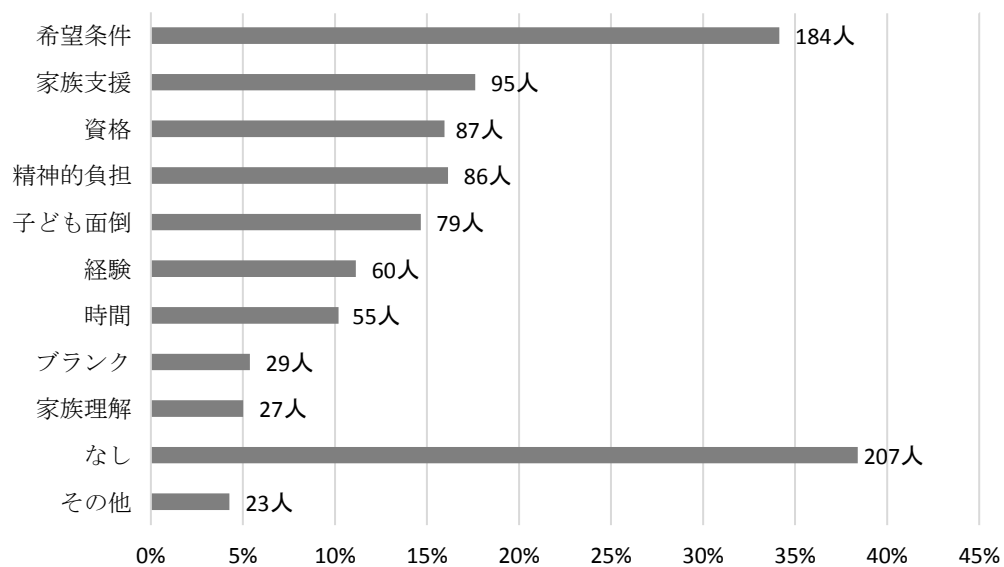
(1) 再就職前に不安だったこと	(2) 実際に働いても不安を感じたこと						
	ついていけるか	子育て両立	職場人間関係	将来キャリア	得意分野	その他	なし
ついていけるか	50%	47%	41%	16%	12%	5%	
子育て両立	32%	60%	32%	19%	12%	4%	13%
職場人間関係	40%	45%	50%	16%	14%	3%	17%
将来キャリア	26%	58%	40%	74%	28%	4%	2%
得意分野	51%	49%	45%	34%	43%	5%	5%
その他	33%	25%				58%	33%
なし		2%	9%	5%	2%	3%	84%

2.4.8 求職活動で苦勞したこと

問28. 再就職活動で苦勞したことについて

求職活動で苦勞したことは、「なし」が38%で最も多く、次いで「希望する条件に合う仕事が見つからない」が34%となっています。

表 2.4.8 求職活動で苦勞したこと(いくつでも回答)(N=539)

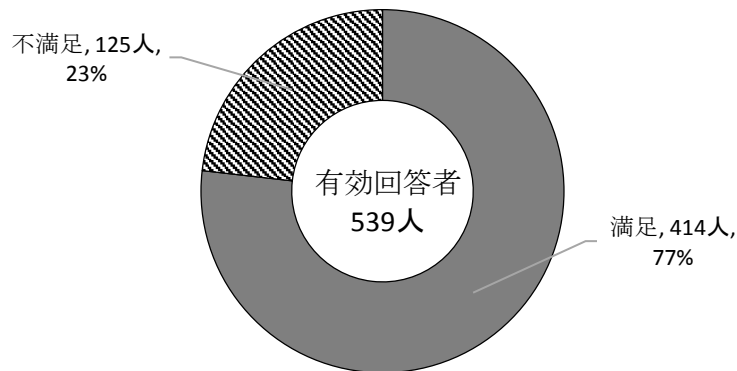


2.4.9 再就職に満足しているか

問 29. あなたは現在の仕事に満足していますか。

再就職した仕事については 77%の人が「満足」と回答しています。

表 2.4.9 再就職に満足しているか

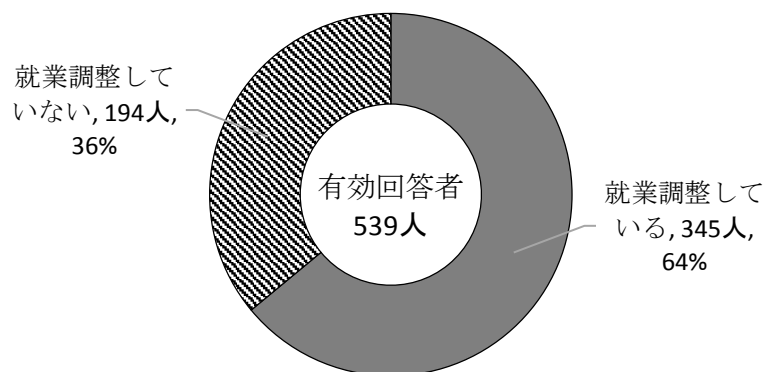


2.4.10 就業調整の有無

問 30. あなたは現在配偶者控除や社会保険料の適用を理由として、就業調整を行っていますか。

再就職時に年収を 103 万円以下、130 万円以下に抑えるように就業調整を行っている人は 64%です。

表 2.4.10 再就職後の就業調整



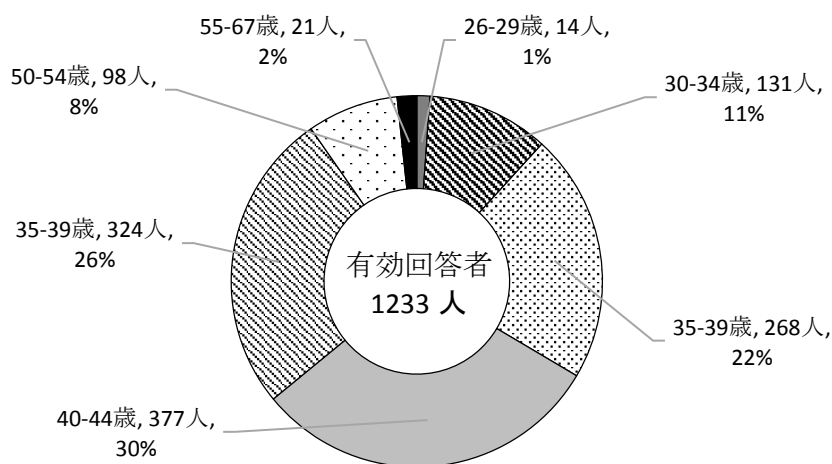
3. 配偶者の属性と就業状況

3.1 配偶者の生年および年齢

問 3 2. 配偶者の方の生年（西暦）と平成 28 年 10 月 1 日時点の年齢をご記入ください。

配偶者の年齢は、「40 歳から 44 歳」が最も多く、30%を占めます。

表 3.1.2 配偶者年齢

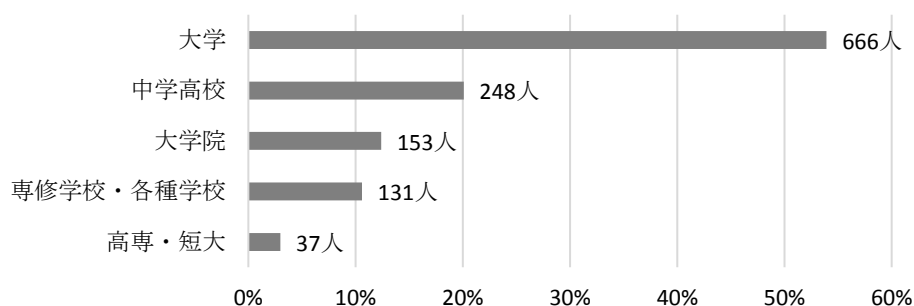


3.2 配偶者の最終学歴

問 3 3. 配偶者の方が最後に行った学校は次のうちのどれにあたりますか。

配偶者の最終学歴は「大学」が最も多く、全体の 54%を占めています。

表 3.2 配偶者の最終学歴 (N=1235)

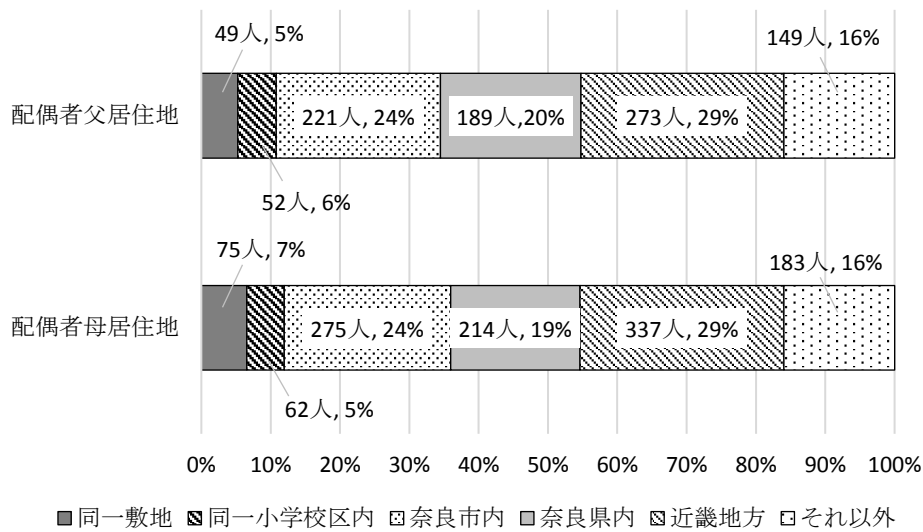


3.3 配偶者の父母の居住地

問34. 配偶者の方のご両親は現在、どちらにお住まいですか

配偶者の父母の居住地はともに「奈良市内」（同一敷地、同一小学校区内を含む）がそれぞれ34%、36%と最も多くなっています。単独では「近畿地方」が29%で多くなっています。

表3.3.1 配偶者の父（N=933）・母の居住地（N=1146）



3.4 配偶者の就業状態、従業上地位、職業

問36. 配偶者の方は、現在、収入をともなう仕事についていますか。

問37. 配偶者の方の仕事は、次のどれにあたりますか。

問38. 配偶者の方の仕事の種類は、大きく分けて次のどれにあたりますか。

配偶者の現在の就業状態は 99%が「有業」となっています。従業上の地位は「正社員・正職員」が 73%と最も多く、職業は「専門的・技術的職業」が 27%、「事務的・営業的職業」が 26%となっています。

表 3.4.1 配偶者の就業状態

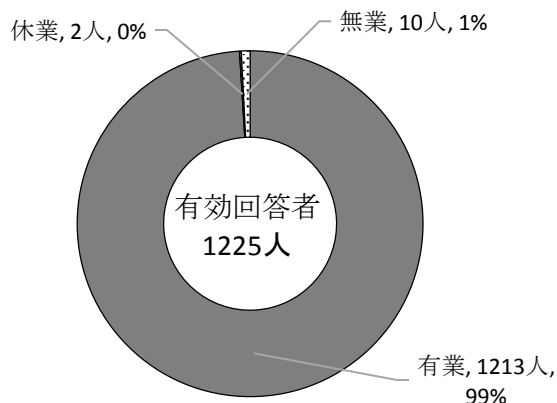


表 3.4.2 配偶者の従業上地位 (N=1221)

	度数	%
正社員・正職員	894	73%
公務員	120	10%
自営業主・自由業者	103	8%
会社経営者・役員	60	5%
契約社員・嘱託社員	21	2%
パート・アルバイト (フルタイム)	4	0%
パート・アルバイト (短時間勤務)	5	0%
自営業の家族従業者	5	0%
内職	0	0%
その他	9	1%
合計	1221	100%

表 3.4.3 配偶者の職業 (N=1207)

	度数	%
専門・技術	320	27%
事務・営業	312	26%
技能・労務	227	19%
管理	183	15%
販売・サービス	137	11%
保安	6	0%
農林漁業	4	0%
その他	18	1%
合計	1207	100%

3.5 配偶者の従業地と通勤時間

問39. 配偶者の方が主にお仕事をなさっている場所はどこですか。

問39-1. 配偶者の方の通勤時間は片道どのくらいですか。

従業地は「奈良県外」が52%で最も多くなっています。通勤時間は「31-60分以内」が40%と最も多いものの、「30分以内」も36%と多くなっています。

表 3.5.1 配偶者の従業地 (N=1203)

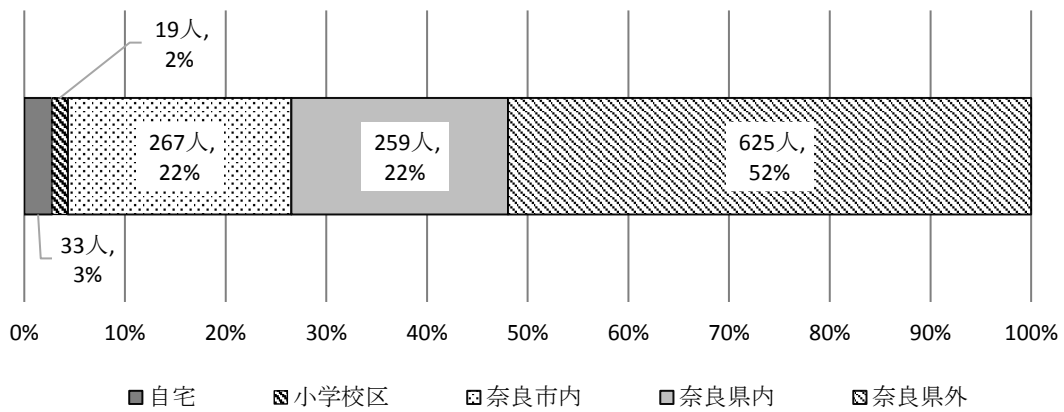
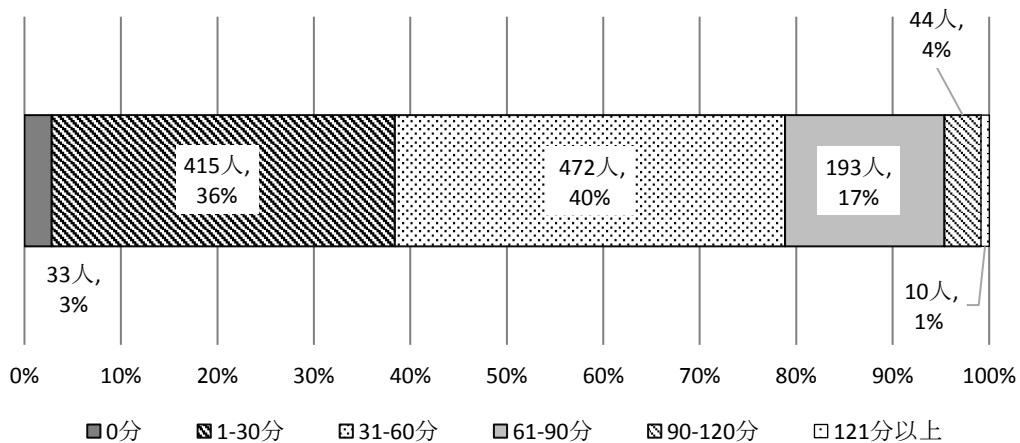


表 3.5.2 配偶者の通勤時間 (N=1167)

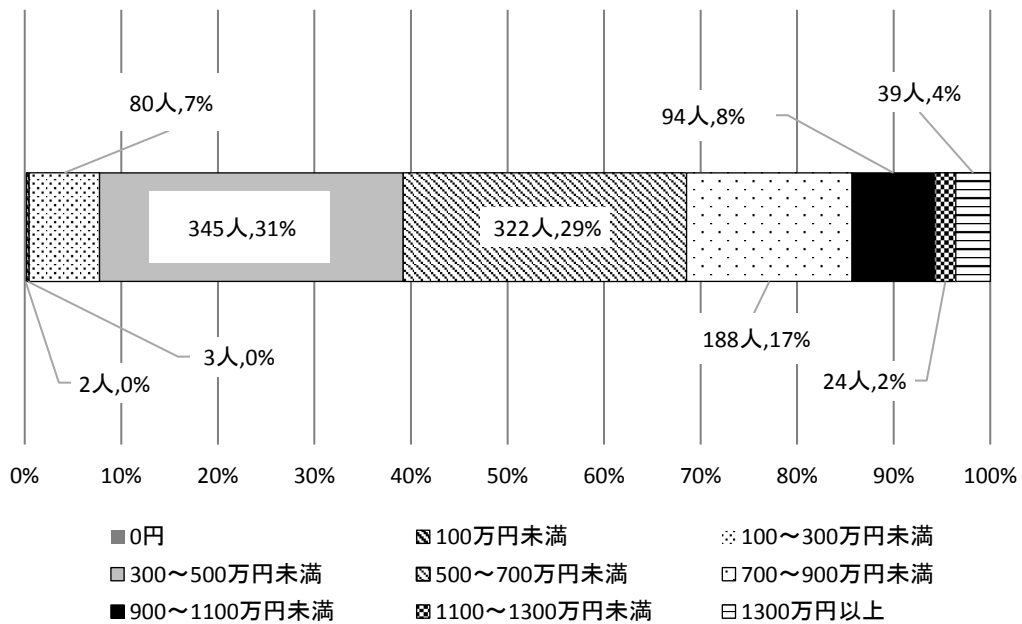


3.6 配偶者の年収

問40. 配偶者の方の昨年1年間（1月～12月）の収入（税込み）は次のうちどれに近いですか。

配偶者の年収は、有休業の場合「300～500万円未満」が31%と最も多く、次いで「500～700万円未満」が29%となっています。300～700万円未満で全体の6割を占めており、また500万円以上でも全体の6割を占めています。

表 3.6 配偶者の年収 (N=1097)



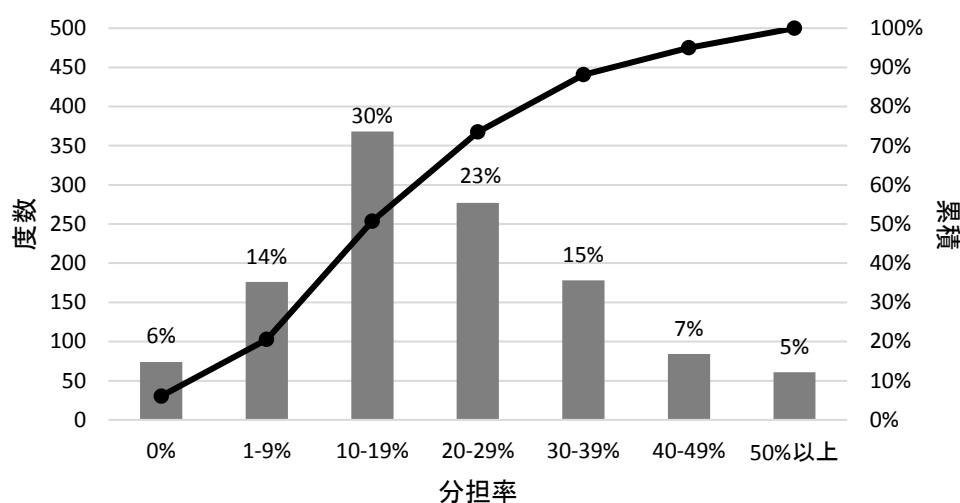
4. 配偶者・親族からのサポート

4.1 配偶者の家事分担率

問4 1. あなたと配偶者の方は、日ごろ、家事や子どもの世話をどれくらい分担し合っていますか。

回答者と配偶者で行う家事の総量を 100%としたときの配偶者の家事分担率は、回答者が感じている率としては「10-19%」が 30% (368 人) と最も多くなっています。

表 4.1 配偶者の家事分担率 (N=1218)



4.2 配偶者及び親族からのサポート

問4 2. あなた及び配偶者のご家族・ご親戚・ご友人のうち、次の助けを期待できる方がいますか。

配偶者および親族からのサポートに関する設問は、「子育てについての悩みやグチを聞いてくれる」「子育てについて心配なことが起きた時に、助言やアドバイスをくれる」「急な用事ができた時に、気軽に子どもの世話を頼める」「夫婦関係や親族関係についての悩みごとやグチを聞いてくれる」「これからの生き方について助言やアドバイスをしてくれる」「忙しい時に、家事などを手伝ってくれる」の 6 項目について、選択肢にあげられた親族のなかから、当該サポートを期待できる人をすべて選ぶ形式になっています。

このなかで精神的サポート（「子育て悩み相談」「生き方相談」）と手段的サポート（「子ども世話」「家事」）の 4 つに注目すると、精神的サポートは「夫」「友人」

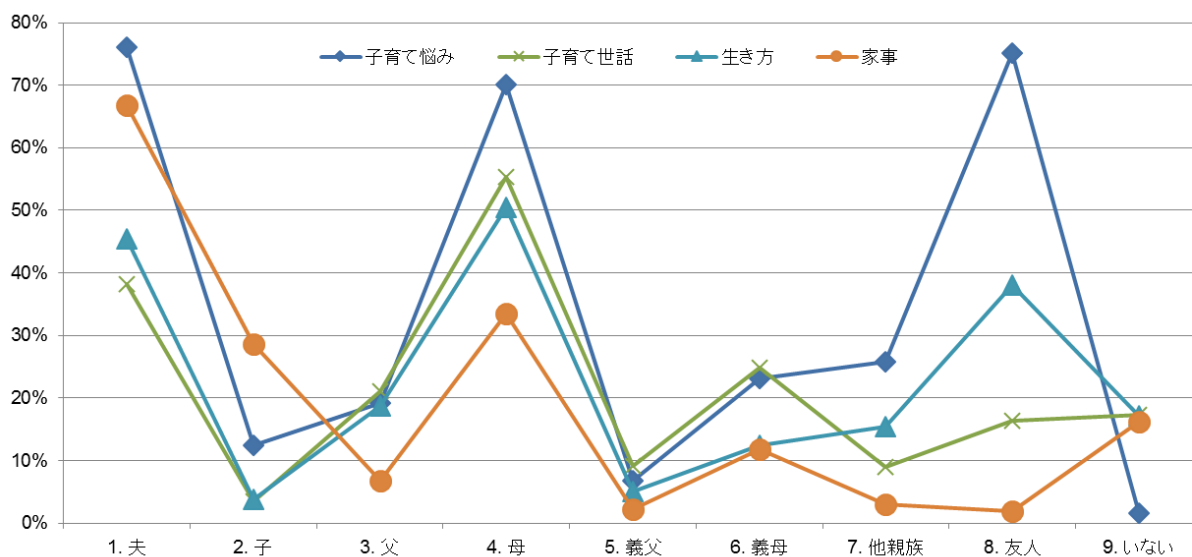
「母」、手段的サポートは「夫」「母」に期待する傾向があります。また夫は「家事」(67%)に比べて「子どもの世話」(38%)の割合が低く、逆に母は「家事」(33%)よりも「子どもの世話」(55%)の割合が高い傾向にあります。また手段的サポートについて、「いない」と回答した人が16~17%あり、精神的サポートに比べ高くなっています。

表 4.2 ソーシャル・サポート (あてはまるものすべて回答)

	子育て悩み (N=1232)	子育て助言 (N=1228)	子育て世話 (N=1227)	夫婦関係悩み (N=1221)	生き方 (N=1214)	家事 (N=1223)
1. 夫	76%	60%	38%	29%	45%	67%
2. 子	12%	4%	4%	7%	4%	29%
3. 父	19%	19%	21%	11%	19%	7%
4. 母	70%	70%	55%	52%	50%	33%
5. 義父	7%	8%	9%	3%	5%	2%
6. 義母	23%	29%	25%	9%	12%	12%
7. 他親族	26%	22%	9%	20%	15%	3%
8. 友人	75%	67%	16%	65%	38%	2%
9. いない	2%	3%	17%	8%	17%	16%

*子育て悩み・子育て助言・子育て世話・夫婦関係の悩み・生き方・家事の6項目について、「夫・子などの親族や友人がサポートしてくれるか」に対する「はい」の比率を示したもの。

図 4.2 ソーシャル・サポート (子育て悩み・子育て世話・生き方・家事の4項目のみ)



5. 回答者の生活環境

5.1 居住年数と居住形態

問45. あなたは奈良市内に通年で何年くらいお住まいですか。

問46. あなたの現在のお住まいは、次のうちのどれにあたりますか。

居住年数は「10-20年未満」が32%と最も多く、次いで「10年未満」が28%で、双方併せると60%となります。居住形態は「持ち家」が79%を占めています。

表 5.1.1 居住年数 (N=1234)

	度数	%
10年未満	347	28%
10-20年未満	396	32%
20-30年未満	149	12%
30-40年未満	218	18%
40年以上	124	10%
合計	1234	100%

表 5.1.2 居住形態 (N=1238)

	度数	%
持ち家	973	79%
賃貸住宅	210	17%
公団・県営・市営住宅	35	3%
官舎・社宅・寮	19	2%
その他	1	0%
合計	1238	100%

5.2 同居人数と要介護者

問47. 現在、あなたと一緒に住んでいる方はあなたを含めて全部で何人ですか。

問48. 同居・別居のご家族の中に、現在、介護や看護を必要とする人がいますか。

同居人数は「4人」が46%で最も多く、次いで「3人」が31%となっています。家族に要介護者がいる世帯は9%です。

表 5.2.1 同居人数 (N=1238)

	度数	%
1人	1	0%
2人	14	1%
3人	384	31%
4人	569	46%
5人	209	17%
6人以上	61	5%
合計	1238	100%

表 5.2.2 要介護者の有無 (N=1238)

	度数	%
要介護者有	115	9%
要介護者無	1123	91%
合計	1238	100%

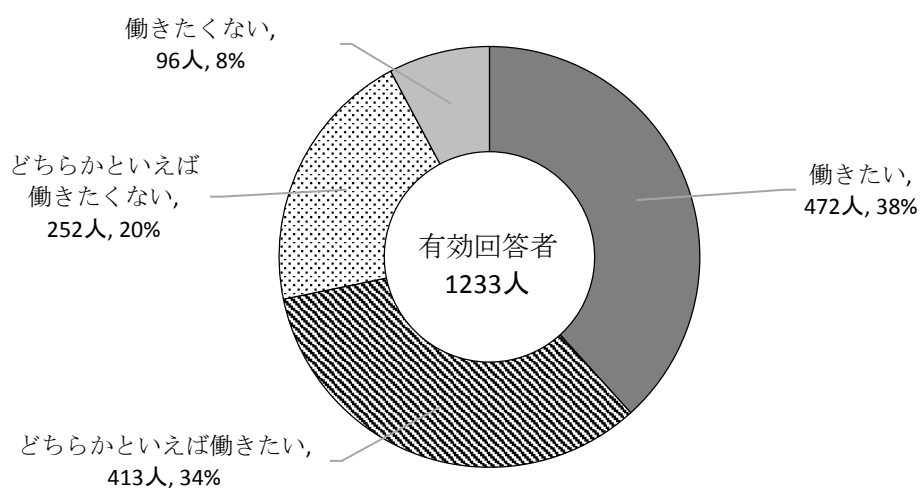
6. 回答者の生活意識

6.1 経済的余裕があっても就業を希望するか

問43. あなたのご家族に経済的余裕があっても、働きたいと思いますか。

経済的余裕があっても働きたいかという問いについて、「働きたい」が38%、「どちらかといえば働きたい」が34%となっています。両者を合わせると71%となり、経済的条件に関わらず、就業希望者は多いことがわかります。

表 6.1 経済的余裕があっても働きたいか

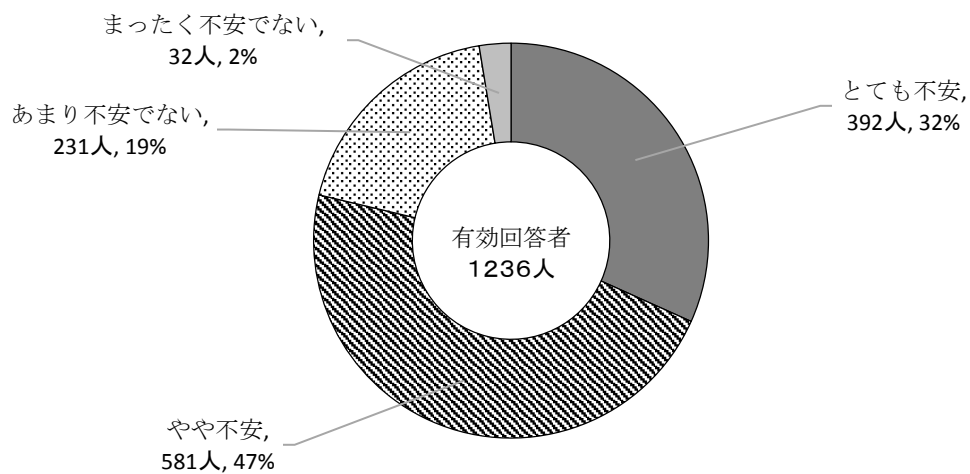


6.2 10年後の見通し（生活不安）

問44. あなたは、今後10年先のご家庭の経済状況について、どのよう
にお感じですか。

10年後の生活について、「とても不安」32%、「やや不安」47%を合わせると、8割
近くが不安を感じています。

表 6.2 10年後の見通し（生活不安）



6.3 今後の子ども希望

問50. 今後、「子どもが欲しい」という希望はありますか

今後子どもを希望するかどうかについて、希望「有」は21%、「無」が75%です。
「その他」には現在妊娠中などの回答が含まれています。

表 6.3 今後の子ども希望（N=1225）

	度数	%
無	920	75%
有	254	21%
1人	205	17%
2人	37	3%
3人	3	0%
無回答	9	1%
その他	51	4%
合計	1225	100%

7. 女性調査票自由記述欄(一部抜粋)

社会・家庭に関するもの

【家庭や親族、近隣住民の理解とサポートについて】

○一人でも多くの女性が働きやすく、かつ子育てに余裕を持つことができるように制度の充実やサポートが増えたらいいなと思います。結婚、出産しても仕事を続けるということは非常に大変ですが、子育てしながらも社会に必要とされる場があるという安心感を得たときに初めて続けてきてよかったと思えます。辞めるのは簡単ですが、どうか頑張って続ける選択肢を増やしてほしいです。

○小学校では平日に行事や役員会の会合、横断歩道の当番が集中し、正社員で働いている場合、それほど頻繁に仕事を休める訳でもなく、肩身の狭い思いをすることも多々ある。女性が長年働きやすいような環境作りに地域でも早く取り組んでもらいたい。

○共に働き、共に家事をするのが当たり前という家庭が大多数になると、さらに労働環境は変わっていくと期待しています。

○子供の世話に家事、それらをバランスよく両立するためには、サポートしてくれる家人が必要であると思います。私も主人の理解、母の協力が無ければ働き続けることが出来なかったでしょう。

○保育園の壁に、小学校の壁、働きながら子育てをするのがこんなにも大変だと知っていたら、子供を産まないという道を選んでいたと思います。

○フルで仕事をしている場合、一人で全て（仕事・家事・育児他）するのは無理です。夫や周りの人の手助けや、（優しい）言葉がけは必要だと思います。自分の心身を守るため、いかに効率よく負担を減らし、自分の時間を作るかが大切だと思います。

○子供の手が離れたら、自分の子育てが大変だった経験から、子育てに奮闘しているお母さんをサポートできるお仕事かボランティアをしたいと思います。心のゆとり、時間のゆとりが誰にも必要だと思います。

○結婚すると、配偶者の家事・育児の協力の有無で女性が働きに出るか出ないかが変わると思います。

○夫の協力が得られないことに不満を感じる一方で、自分自身の中にも「女は家庭」という従来型の考え方が無意識に染みついている、夫に家事への協力を求めることをためらわせているのではないかと思うようになりました。女性の社会参加の為には、夫婦での家事・育児の分担が大切だと思いますが、家庭科が男女共修でなかった時代に育った私には家事を分担することに対する罪悪感が強く、自分で自分を縛り付けているようにも感じます。

○働く母、専業主婦として家にいる母、どちらが良いではなく、大切なのは「私はこうしたい！」と女性が望んだ時に、それが実現できる環境があること（夫、家族の理解、社会や地域の理解と受け皿など）。たった一度の人生を、男であれ、女であれ、母であれ、誰でも後悔のない生き方ができる事を願います。

【家事や育児（生活）と仕事との両立に関する女性の負担について】

○仕事のほかに「家事」の負担が大きく、毎日が非常に時間的余裕のない生活になっている。家事サービスを頼むというのも一つの手段なのかもしれませんが、色々な理由でまだハードルが高いと思っています。

○小学校では平日に行事がたくさんあり、PTAも必ずやらなくてはならず、両立は難しいと感じています。平日にしなくてよい役員なども認めてほしいです。

○私は夜勤や深夜勤務も含む介護職についていますが、両立はかなり厳しいです。体力的にはかなりきついです。自分のやりたい仕事や理解してくれる仲間と働けることは生きがいにもなり、育児の息抜きにもなっています。今は全てを両立させなくてはならないパワーのいる時期だと思っています。

○毎日の生活は本当に息つく暇もないほど忙しいです。体を壊しているときでさえ、寝ていることはできません。目が回って倒れる手前という日も多いです。仕事も職場でやり終えられないので、家事が終わり、寝かしつけてからこそそそとやることも多々です。

○フルで仕事をしながら、小学校のPTA役員をしなければいけないのはとても厳しいです。子供の病気、大雨警報、学級閉鎖、参観、運動会等の学校行事など、子供の事で仕事に穴をあけてばかりで、気を遣ってストレスがたまる。そこにもうひとつPTA役員の集まりも入ってくると今の仕事は続けられないと思う。

○働きながらの子育ては葛藤の連続です。育児中にはある程度割り切って働いていますが、そのせいでキャリアが失われている部分もあり、今後を不安に思うこともあります。女性が育児をしながら働き続けることは難しいと思います。

○小学校の行事（参観、懇談、PTA関係、個人懇談など）に悩まされます。保育園の時は両親とも働いている前提なので、行事についても時間など配慮がありましたが、小学校はそれが感じられません。

【行政による育児や教育に対するサポートについて】

○女性がキャリアを積みながら、仕事を継続するには家族のサポートだけでは不可能と感じる事があった。未就学児童へのサポートだけでなく、小学生の親もサポートしてくれる制度など、行政の育児サポート制度の充実を望んでいる。

○最近は女性が働くことを後押しする傾向があるが、保育の受け皿や男性の就労状況を改善してくれないまま女性にもっと働けと言われていたような気がして、違和感がある。

○女性が働きやすい環境作りとともに子供たちが育ちやすい良い環境作りをしてほしい。未来の支えになっていくのは今目の前にいる子供たちです。女性の仕事と生活を考えるにあたり、子供たちの環境も考えてください。

○男性でいう働き盛りの世代が、女性では育児期間に当たると思う。仕事で結果を出しながらその中で育児と両立していくことの大変さを施策立案者の方々にも理解してもらいたいと思っています。

【保育施設・サービスについて】

○子供が病気になった時の預け先を充実させてほしいと思います。働きたくても実家が遠方だったりして、子供が病気になった時にどこに預けるかというのが一番困ります。

○奈良市は公立の幼稚園が2年保育のところはまだ多いが、せめて3年保育になってくれればだいぶ助かるのと思う。

○保育園に入れても、警報や体調不良など何かと家庭保育が必要となる。体調不良はまだしも、警報で仕事を休めるほど、仕事は生ぬるくない。

○子供の保育園入所がここまで厳しいとは思わなかった。保育園は4月入所が有利、1人親が有利、兄弟がいる方が有利と、待っていてもどんどん抜かされて一向に入所できない。頑張って就職したところで、保育園の入所が出来なければ仕事を辞めざるを得なくなり、今までの努力は水の泡になってしまうような気持ちです。

○働きたくても、子供を預かってくれる場所が（保育園やこども園など）なくて困っている方もたくさんいる。保育施設を増やせばその分保育士の数も必要になってくると思うが、子育て中の保育士、幼稚園教諭の免許を持っているお母さん方が就けるような、短時間パートの保育士さんを増やせば良いのではと思う。

○家事と仕事の両立は大変なので、保育園の存在に助けられています。保育士さんの大変さを社会ももっと理解するべきだと思います。

○病児保育施設がより多くあれば、一日休暇を取らずに半休で済んだり、小児科と提携している施設なら、安心して子供を預けることができるのかもしれない。

企業・職場に関するもの

【働く女性をサポートする制度や再就職しやすい環境について】

○世の中では女性も働けるよう、待機児童を減らす、保育所を作るという動きが見られますが、それよりも女性が働きやすい職場環境を作ることの方が大切だと思います。子供の小さい間母親と過ごす時間はとても大切だからです。子供の体調が悪い時には休める、幼・小学校の行事に休みをとれる、子供の小さい間は就労時間を短くできる等々ができるとうれしいと感じています。

○夫（配偶者）の仕事が9時～17時ならば、自分もフルタイムで働くことができるし、それを希望する女性も多くいるのではないかと思います。残業が当たり前の日本社会において、社会全体のあり方を考えなければ女性の社会進出、復帰は難しいのではないかと。

○夫の家事、子育てに従事する時間を増やせるように、長時間労働の見直しに関する気運が高まることを心底望んでいます。

○看護師等はブランクのある方の勉強会があつたりしますが、教員も研修や補助から入るようなシステムがあれば再就職できたかもしれないと思います。

○正社員とパートの報酬と待遇にかなりの差を感じています。いろいろな経験をしてきた人間であるからこそもう少し働きやすい環境を準備していただけたらと思います。

○病児保育が可能な保育園や職場を作るよりも、子供が病気になったらすぐに退勤できたり休ませてもらえる職場の体制作りが大切だと思うし、強く希望します。熱を出してしんどい子供を病児保育に預けてまで働かないといけないなんて、本末転倒だと思います。

【職場同僚や上司等の理解とサポートについて】

○何か仕組みや制度を導入する際は、介護や育児などの時間に制限のある社員だけでなく、その者たちをサポートする立場の社員に対する配慮がないと、「不公平感」はぬぐえないと感じます。

○幸い、出産しても仕事を辞職しないという職場の風潮に恵まれましたが、子供ができたからお互いさま、という雰囲気づくりはかなり重要であると実感しました。

○子供の学校の参観日に、仕事で来ることができないママもおられるので、仕事場も、子供を持っている方にはそういうときにお休みの取りやすいような働きかけをしてあげてほしいです。お仕事はもちろん大切ですが、仕事の変わりは誰かが出来ても、お母さん、お父さんの代わりには誰もなれないので、子供の事を一番に考えて、そのために、お休みも取りやすい仕事場が増えてほしいです。

○短時間で再就職したとき、他の正社員からはいやな目で見られました。忙しい職種なので、子育て中でも夜勤を含め、長時間仕事をするのが当たり前の雰囲気があり、結局その職場は退職してしまいました。

【再就職、復職について】

○特に余裕のない中小企業にとっては、ブランクのある人材、育児や介護などで勤務に影響のある可能性の高い人材の採用にはリスクを感じやすいです。一方で、優秀であれば、そういった人材も採用したいと考える企業もたくさんあります。出会う機会の創出とお互いの意識の醸成が必要です。

○自身の年齢から、フルタイムは考えられないのですが、先の生活を考えるとしっかり働いていかないと老後もかなり不安になります。

○保育園の間は子供を遅くまで預かってくれるが、小学生になったとたん預かりの時間が短くなるので、もっと時間に融通のきく職場があれば、働きたいと思う。

○保育園が決まっていないと採用されない、採用されていないと保育園が決まらない。この無限ループで、苦労しました。仕事が決まっていなくても、子供を預けて就職活動できるための制度を作してほしい。

○保育園に預けるとしても、仕事が決まっていなくて入れないし、預けられないと職を探すことができない。市等が運営している一時保育預かりを利用するにしても、生活が厳しいので費用面で不安があります。

○子供が中学生になったら、仕事に時間をとることができるようになるかと思いましたが、社会状況が昔と違い、中学・高校になっても懇談や部活の送迎などで時間をとられるので、フルタイムで働くのは現実的ではありません。

○子供と自分たちの老後の為にも、貯金を考えて働こうかと考えていますが、子供の面倒をみたり手助けしてくれる人がおらず、職場の条件として、場所など（自宅から近い）を考えるとなかなか見つけられずにいます。

○子供の下校時間までのパートなどがありますが、夏休みなど長期休みの間はどうしても子供が一人で留守番になります。子供が大きくなるまでの間、働かず、家庭に入ってしまうと、今度は希望する仕事がありません。また、社会に溶け込めるかも不安です。子育てを優先して働くことは今の社会ではとても難しいです。

○パートでいいので、もっと短時間（3時間以下）で働ける仕事が多いと助かります。子供が学校に行っている間に働ける仕事が増えれば、預け先の心配もせずに働くことができますと思います。

○パートや契約社員では、仕事をいくら頑張ってもキャリアとして評価されない、なんともやる気の出ない現状です。

その他

○長いブランクを経て再就職しました。経済的な理由から働き始めましたが、今は社会で働くことにやりがいを感じています。家庭以外の場所で、「私」を生かせる場が、女性にもっと必要だと思うようになりました。

○自分の子供と向き合いしっかり子育てするのが母親にしかできない特権だと思っています。やりがいのある仕事を捨てられない人が多いことを知っていますが、もう少し子供を自分の目でしっかり見つめ、子供たちの心の中をのぞいてほしいです。女性の生き方も大事ですが、将来を背負う子供たちに、もっと目を向ける世の中になってほしいです。

○子育てが一段落してパートタイマーで働き始めました。仕事により毎日充実した時間を過ごせ、また様々な方と接する機会が増え、話をする事により世界が広がりました。どういう形がいいのかは人それぞれですが、仕事に就くことが私にとっては毎日の生活にメリハリが付き良かったと思います。

○配偶者控除や社会保険の壁で、仕事のシフトをセーブしたり諦める人が多い。

○私自身就職するときに、結婚や出産を想定しておらず、いざ結婚・出産することになって様々な決断をすぐにしなくてはなりません。もっと事前にいろいろな状況を想定してキャリア形成を考えておけばよかったと今更ながらに反省しています。実際に仕事をしながら育児している女性の話を聞く機会や、職場に同行するなどの体験できればいいのでは、と思います。

○女性の社会進出が声高に叫ばれる中で、相対的に専業主婦の地位が下がっているように思う。これだけワークシェアや、多様なライフスタイルが認められる世の中で、大いに矛盾を感じる。

○現在の風潮として、仕事もして子育てもしてエライ…というのがあると思います。ただ、子育ても大仕事です。人を育てるので、片手間には出来ないと思います。

○働くことで社会と繋がり、自分でお金を稼ぐということは経済的な面だけでなく、主人に対する感謝を深めることにも役立っております。

○仕事で責任のある立場となり、仕事の本当の面白さに気づいた頃から「ああ、辞めなくてよかった」と思えるようになりました。家族以外の人から「あなたがいてくれてよかった」「ありがとう」と言ってもらえること。自分の能力を発揮する場所があることの有難さを、今はしっかり実感しています。息子も少しずつ私の仕事を知り、両親の働き方に関心を持ってきているようです。

○子供を産んだばかりに、自分らしく生きられない。まるで、子供がやっかいもののように扱われる社会なんて、出生率も下がるのも自然な成り行きです。

○じっくりと働かせたいのなら、中途採用を積極的にしていただきたいです。22歳で採用して育休で休まれるよりも、40歳で採用して60歳までならじっくり20年は勤務可能です。保活や子供の急病等の問題も少ないのではないのでしょうか。

○女性が男性と同様の働きをするのではなく、女性にしかできない働きができるようになるといいなと考えます。

○子供の頃から、男女平等、女性の就職、家事・育児の分担などについて学習し、意識を変えていく必要があると思います。すでにできあがった固定観念を変えるのは大変。

○仕事をするうえで、「子供にとっての母親」というものをよく考えるようになりました。家で待っているのが良いのか、働いている背中を見せるのが良いのか。子供がうれしい思いをしているとき、さみしい思いをしているときに「仕事への責任感」と「子供の気持ち」の間を揺れ動くことがよくあります。女性の社会進出は素晴らしいことですが、子供へのサポートのある社会でないという意味がないと思います。